



第 12 号

1992年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

最近の発掘調査から



鉄鋳出土状況

くぼきやくし

窪木薬師遺跡発掘調査終了

総社市の東部を流れる前川の河川改修に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成2年6月から実施されました。調査が進むにつれ出土する遺構や遺物などから鉄器生産に関連した集落跡として注目されてきました。平成3年11月をもって調査は終了し、多くの成果が得られました。以下、遺跡の概要と古墳時代の鉄器生産に関する

遺構について紹介したいと思います。

窪木薬師遺跡は弥生時代後期前半から近世に至る複合遺跡です。竪穴住居48軒、土壇85基をはじめとする多数の遺構と、玉類などの装飾品を含む多種多様な遺物が確認されました。特筆されるのは、弥生時代後期前半の土壇2基から検出されたガラス滓、古墳時代初頭の焼失住居



鍛冶炉検出状況

の床面から多くの吉備の土器に混じって認められた東海系の土器、古墳時代前半の竪穴住居から出土して注目を集めた鉄鋌、そして古墳時代後半期の鍛冶炉などです。中でも後二者については、鉄器生産に関する興味深い知見を得ることができました。

鉄鋌は、古墳時代前半期の竪穴住居に造付けられた竈の内部から、炉床に置かれた状態で出土しました。鉄器の原材料としての性格とそれ自体に貨幣的役割があるとされる鉄鋌ですが、いずれにしても、当時鉄は大変貴重なものから大半は古墳から副葬品として出土しており、当遺跡のように竪穴住居内からの出土は全国でもわずか4例目です。この竪穴住居からは、鉄鋌の他に朝鮮半島系軟質土器や陶質土器が出土しています。鉄鋌については朝鮮半島舶載説と一部国産説がありますが、窪木薬師遺跡の周辺に朝鮮半島的色彩の強い遺跡が多く存在することを考えると、吉備の中でも比較的早くから大陸文化の受け入れを可能とした“地域性”を窺い知ることができます。また、この住居から鉄鋌に共伴して鍛冶滓が出土していることは、古墳時代前半期の鉄器製作の在り方を知る上で重要な発見となりました。



轆の羽口

窪木薬師遺跡で最も遺構密度の濃い時代は古墳時代後半期です。竪穴住居は全体の3分の2にあたる32軒を数え、当該期の集落の存在を裏付けます。そして特徴的なのは全ての住居から鉄滓及び

鉄器が確認され、また数軒の住居からは轆の羽口や砥石、鉄製鍛冶道具などが出土していることです。さらにこの集落からは2基の鍛冶炉が発見されました。2基の炉は、新しい炉が古い炉を切る形で検出されており、先にあった炉の上に新たに構築し直したものと思われます。炉は直径約40cmの円形を呈し、その北にはこの鍛冶炉からの廃滓で埋まった約6×5mの竪穴住居が検出されています。古い竪穴住居を鉄滓の廃棄場として利用したことが窺えます。また、炉のすぐ南には約7×8mの大型の竪穴住居が検出されました。この住居内からは移動式の竈片、轆の羽口片、楔形鉄器などが出土し、さらに床面及び覆土中から夥しい数の鉄滓が検出されました。また、床面からは壁の強く焼けた土壌が1基確認されており、住居の規模、出土遺物と考え合わせるとあるいは鍛冶工房として機能していた可能性も考えられます。一方、これらに近接して壁の強く焼けた土壌が10数基確認されています。その内の1基から、炭が規則性をもった状態で検出されており、鍛冶に伴う炭窯としての性格が推測されます。



壁の強く焼けた土壌

以上のように、窪木薬師遺跡は古墳時代後半期には集落全体が鍛冶の集団と関係する遺跡であったと考えられます。近年古墳時代の鍛冶遺跡について、次々とその報告がなされていますが、ほとんどは山間部、あるいは丘陵部の類例です。当遺跡のように沖積平野で、しかも一括した鍛冶遺構についての報告は、今後の研究に貴重な資料を提供するものとして期待されます。

(鳥崎東・長川優・竹原伸之)

センターの年間事業（平成3年度）

調査第一課

平成3年度における調査第一課の人員は二係18名、発掘調査対象遺跡および調査期間については8頁一覧表のとおりです。

まず岡山県立大学(仮称)の建設に先立って、先年から引き続き調査を実施してきた南溝手遺跡、窪木遺跡では、共通学部棟・福祉学部棟・短期大学部棟・講堂などの主要建物、エネルギーセンター・浄化槽・西調整池など関連付帯施設の建設予定地、それに各建物間を連結する巾広い共同溝や排水溝をふくめ合計26,000㎡が発掘され、県立大学敷地約200,000㎡にわたるなかでの備中南部平野の古地形の形成過程、および各時代の遺構のあり方がしだいに判明してきました。今後これほどの調査対象地をもつことは少ないと予想されるだけに、いくつもの重要な成果と課題をもたらしたといえるでしょう。

特徴的な二・三の事柄について書きとどめるにしても注視されるものばかりです。

第一に挙げえるものは、縄文時代後期末(福田KⅢ式・宮滝式平行期)に入る土器片に榎の圧痕が発見されたことです。渡部忠世京都大学名誉教授による鑑定の結果、間違いなく榎の榎殻でありしかも栽培種であることが判明。日本列島への榎の伝播の時期がさらに確実に当該期にまで遡る可能性を強めました。出土地点は異なるものの同じく縄文時代後期に属する包含層からも磨製大型蛤刃石斧や石錘などが出土しており、大陸系のものか否か今後検討を要します。

第二には、本紙前号で紹介しましたとおり、弥生時代前期初頭の竪穴住居址の構造が朝鮮の松菊里型に似たもので、中央の長方形土壇から大ぶりの筋砥石とともに管玉の未製品が発掘されて注目を集めました。これと類似した特徴ある住居址がさらに数軒見つかっています。いずれも円形で径は5m程度、床面からサヌカイト片やめのうの剥片が多数検出されています。日本最古の玉造りがこの地ですでに開始されており、これら竪穴住居址の間隔は100mに一軒

といった希薄さであったことも窺い知ることができます。

前川河川改修に伴う窪木薬師遺跡では、先年から製鉄に関する遺構・遺物が検出または出土して衆目を集めました。予定終了間近になってさらに下流にも遺跡の広がりが確認されて、調査期間を延長し、完掘を果たしました。約1,200㎡の拡張区でも6世紀代後半の方形竪穴住居址のなかに夥しい鉄滓を包含した事例や、径40cmの円形の鍛冶炉本体などが新たに検出され、全体として古代製鉄史にかかわる重要な資料が著しく増加したといえます。



窪木薬師遺跡 竪穴住居址(古墳時代後半)

御津工業団地造成の事前調査となった、みそのお古墳群ほかにおいては、前年度に継続して本年度も12基におよぶ弥生墳墓ないし初期古墳



みそのお古墳群 製炭窯

や横穴式石室を発掘調査したほか、新たに発見された製鉄炉3基と製炭窯4基を調査して、ようやく1年半にわたった山上での苦闘の現場をとじました。

調査第一課の事業は上記にとどまりません。県道改良工事、都市計画道路建設、送水管埋設工事などに伴っておきた発掘調査に、津寺三本木遺跡、津島遺跡および政所遺跡があります。いずれも沖積平野に形成された集落跡で、弥生時代から古墳時代そしてそれ以降も重複した、したがって検出に困難を極めた遺跡でしたが、一定の成果を納めることができました。

さらに西花尻散布地をはじめ、寺山古墳ほか・塩納成遺跡・内平遺跡・吉野遺跡・田益遺跡・伊田沖遺跡・熊山遺跡・辛音口古墳ほかの合計9遺跡の緊急調査については常に調査員一人で、時には河本次長みずから乗り出さざるをえない事態となりましたが、それぞれ建設側と保存協議に入る際に必要な調査成果を得たといえます。

そして国庫補助金をうけて実施する圃場整備事業に伴う事前調査は、総社市赤浜散布地ほか

調査第二課

平成3年度調査第二課は旭川放水路（百間川）改修に伴う発掘調査と報告書作成、山陽自動車道（岡山工事区）建設に伴う発掘調査と報告書作成、井原線建設に伴う発掘調査と報告書作成・刊行、国道2号線バイパス建設に伴う発掘調査を実施しました。

旭川放水路関係では百間川兼基遺跡の調査を行ないました。低水路の右岸側で、微高地の南端部とこれに接する低位部にあたります。微高地部では、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒・土壙・溝、古墳時代の竪穴住居跡4軒・掘立柱建物5棟（2×2間総柱2棟、2×2間1棟、2×1間1棟）・井戸3基・溝・土器溜りなどが検出されました。低位部では従来から調査されている弥生時代末の水田跡のひろがりを確認しました。中世の遺構では、幅7m余の大溝があり、平安から鎌倉時代の遺物を出土しています。報告書作成作業は百間川沢田遺跡を対象としました。

山陽自動車道関係では政所遺跡と津寺遺跡の

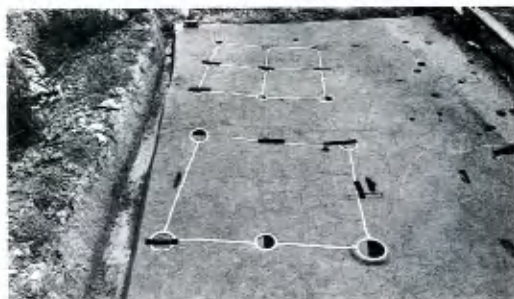
と矢掛町白江遺跡関連の二箇所できりくみ、遺跡の存在と性格の一端をつかむなど、所期の目的を果たし報告書としてまとめて刊行しました。とくに後者については、円面硯や面取りした高杯脚などが見つかったので、小田郡に置かれた官衙跡の可能性が高まり、関係機関の間で保存方法として盛土高をあげて対応する策が検討され、了承されました。

報告書作成事業に関しては、足守川河川改修関連で2名の調査員が年間を通して当り、窪木薬師遺跡と、みそのお古墳群ほかについても、調査完了後引き続き整理・復元・実測など報告書作成へむけて取り組みを開始しました。

なお、普及啓蒙活動の面では例年どおり少年考古教室とスライド会を、そしてのち別項で触れるところの埋蔵文化財専門職員研修会を開催し、好評を博しました。また、発掘現場でのいわゆる現説を御津町みそのお古墳群ほか、総社市窪木・南溝手遺跡の二箇所でおこなったところ、例年になく見学者多数が来跡され、その関心の強さに驚かされました。（葛原克人）

調査を行ないました。政所遺跡は宅地移転の関係で残っていたところで、東側と西側の2か所あり、東側では弥生時代中期の土壙7基、同後期の竪穴住居跡1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒、同後期の竪穴住居跡1軒などが検出されました。西側の地区には古墳時代後期の竪穴住居跡2軒、弥生時代の水田跡等があります。

津寺遺跡は側溝の設置に伴う調査で、幅1m余の狭い範囲ですが、北側で調査された古墳時の集落のひろがりを確認し、4軒の竪穴住居跡を調査しました。報告書作成作業は山陽自動車



百間川兼基遺跡の掘立柱建物（古墳時代）

道建設に伴って発掘調査を実施した船穂町・倉敷市内の遺跡と岡山市富原古墳、同白壁古墳、同平瀬古墳群を対象としました。

井原線関係では真備町蓮池尻遺跡の調査を行ないました。調査地区は蓮池尻遺跡の南端部にあたり、小字名では鶏田、皿田、竹西、沖田です。竹西調査区では、弥生時代前期の土器がまとまって出土しました。他の調査区にも、弥生時代から中世の遺構・遺物が検出されましたが比較的少量でした。8月までに現地調査を完了し、9月に報告書作成を行い、その後印刷・刊行を行いました。

国道2号線バイパス関係では岡山市高下遺跡の調査を行いました。遺跡は吉井川・浅川によって形成された微高地から低位部にひろがっています。微高地部では、弥生時代中期の竪穴住居跡2棟・土塋などが検出されました。住居跡内からは挟入柱状片刃石斧や打製石包丁が出土しています。

古墳時代初頭の六角形を呈する竪穴住居跡1棟があり、床面の周囲が10cmくらい高くなって

本年度調査第三課が行なった発掘調査は、山陽自動車道・中国横断道の建設に伴うものがすべてでした。

山陽自動車道関係の調査は第一係が担当し、岡山市の田益遺跡、山陽町の馬屋遺跡・池新田遺跡・斎宮遺跡・斎宮古墳群などの、さらに後半には横断道の調査にあっていた4名のうち3名と、調査第二課第三係の井原線関係の調査にあっていた2名の応援を受け調査を行なってきました。



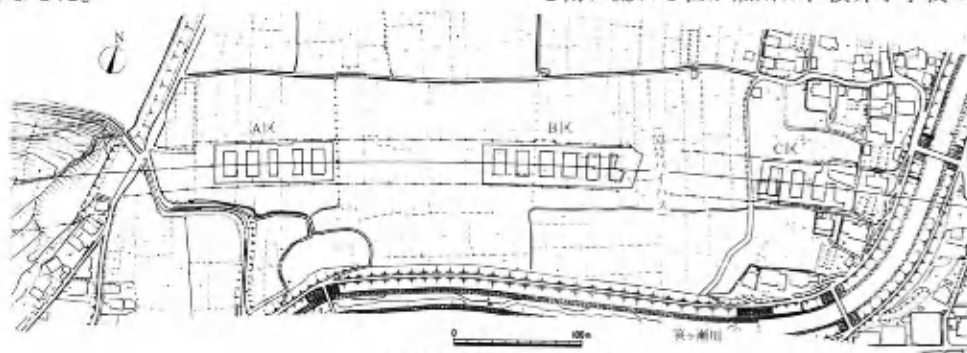
政所遺跡砂場調査区の竪穴住居（古墳時代）

ベッド状遺構が付き、多数の遺物が出土して注目されます。出土遺物には、手あぶり形土器、小型鉢、甕、高杯、製塩に使用された台付鉢のほか、管玉、太型の土錘を出土しました。

弥生時代の微高地が、後には西へ拡大しています。上面には奈良・平安時代から中世の柱穴が多数検出されましたが、建物としてはまとめられません。微高地斜面には古墳時代から中世の溝があります。古墳時代の遺物には古式須恵器の甕があり、香川県からの搬入品と推定される土師器の壺・甕が多数出土しています。
(正岡睦夫)

また中国横断道関係の調査は第二係が担当し、昨年度から行なっていた落合町元定古墳群他、久世町中原古墳群の調査を行ない、昭和63年度から足掛け5年間続いた調査は今年度9月末日で調査を完了しました。10月からは山陽自動車道の応援・報告書作成作業の準備を行なってきました。以下は各遺跡の主な遺構・出土遺物について見てみたいと思います。

田益遺跡は岡山市田益にあります。津高平野を南に流れる笹が瀬川は、横井小学校のすぐ北



田益遺跡の位置と発掘区

岩山のみもとから笹が瀬川までの2km程の所に弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が見られるところが3箇所あり、西からA・B・C区と仮称し調査を進めました。A区では南流する弥生時代前期から中期にかけての溝2条、古墳時代・平安時代の溝各1条、土城、柱穴などが検出されました。出土遺物は溝を中心にして、弥生土器・石器・サヌカイト剥片・土師器・須恵器などが出土しています。B区はA区の東約400mの所にある微高地で弥生時代から古墳時代の竪穴住居・溝、弥生時代前期の土城墓、弥生時代後期の井戸・柱穴、中世の建物などが、また微高地の東側国道53号バイパスに接する付近では自然河道がみられ、下層からは弥生時代前期から中期の土器・石器・木器などとともにトチ・ドングリ・シイなどの自然遺物も多くみられました。C区はB区の東80mの所でその東は笹が瀬川になります。時期は不明でしたが溝・柱穴などの遺構で、遺物はほとんどみられませんでした。

馬屋遺跡は山陽町馬屋にあり、両宮山古墳、備前国分僧・尼寺、古代山陽道の高月駅など、古墳時代から古代にかけての遺跡が集中する場所の一角にあたります。今年度は西側の山よりを幅70m、延長160mにわたって調査しました。主な遺構は奈良時代の掘立柱建物群・溝・胞衣容器（7頁参照）、鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物30数棟・井戸・土城墓・溝などが検出されました。柱穴の中には柱に使われた木材が残っているものも何例もありました。また土城墓のひとつからは人骨とともに副葬さ



馬屋遺跡 奈良時代の建物群と溝

れた白磁碗・早島焼・小皿、備前焼小皿・刀子等が出土しています。その他の遺物としては、奈良時代の瓦類・緑釉陶器・越州窯系青磁、鎌倉・室町時代の多くの土器類が出土しています。

池新田・新屋敷遺跡は、両宮山古墳をはじめその陪塚である廻り山古墳・西森山古墳のすぐ南側にあたるのですが、埴輪片が数個みられたのみで古墳時代の遺構はみられませんでした。新屋敷遺跡では弥生時代後期の土城・溝・柱穴などが検出されています。

斎富遺跡は山陽町斎富にあり、斎富古墳群がある山裾から西の砂川にむかって緩やかに下がっていています。この緩斜面は基盤層が砂利層の所があり、遺構の検出が非常に難しく、今後の調査も苦しめられそうです。調査は工事の急がれたボックス部分3箇所、北側の工事用道路部分を行ないました。1号ボックス部からは弥生時代後期の竪穴住居、室町時代後半の掘立柱建物・井戸・備前焼大甕を使った埋甕などが検出されています。2号ボックス部からは古墳時代の掘立柱建物・溝、室町時代後半と思われる掘立柱建物・溝などがあります。3号ボックス部からは弥生時代中期から後期の竪穴住居、古墳時代の掘立柱建物等が検出されています。これから出土した遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・備前焼・石器・鉄器・分銅形土製品・ガラス玉・勾玉・管玉・白玉・古銭などなど多種多彩なものが出土しています。

斎富古墳群は斎富地区東の山塊上にあり、5基の古墳群からなっています。1号墳は木棺を主体とする円墳、2号墳は8×22mの長方形のマウンドのなかに竪穴式石室・箱式石棺(2)・横穴式石室があります。石室内には多くの遺物が副葬されていました。3・4号墳は開墾により主体部は不明でした。5号墳は1号墳の北側に作られ、竪穴式石室をもつ円墳です。丘陵の西側には弥生時代の木棺墓、室町時代の備前焼を使用した骨蔵器なども検出されています。

中国横断道関係の諸遺跡については前号で報告していますので参照してください。

平成4年度の調査は、馬屋遺跡・斎富遺跡を中心に行われる予定です。(伊藤 晃)

資料紹介

山陽町馬屋遺跡出土の胞衣容器

山陽自動車道建設に伴い発掘調査が進められている山陽町馬屋遺跡で、胞衣（胎盤）を納めていたと考えられる奈良時代中頃の須恵器の坏が和同開珎とともに出土しました。

馬屋遺跡は、備前国分僧・尼寺跡、古代山陽道高月駅推定地に近接した場所に位置しており、遺跡の南西部でも棟方向をあわせた奈良時代中頃の国の役所と考えられる掘立柱建物4棟が検出されています。

坏は、この掘立柱建物群に囲まれた地点で、坏身の中に蓋が割れ込む形で検出され、また坏身の直下から、中央に1枚、その四方に1枚ずつ、計5枚の和同開珎が文字を上に向けた状態で出土しました。

このような銭貨を伴う土器の用途としては、地鎮・鎮壇具、骨蔵器、胞衣容器などが挙げられますが、今回の場合、胞衣容器の可能性が強



胞衣容器出土状況

いと考えられます。胞衣容器の出土は、岡山県下では岡山市津寺遺跡について2例目です。また容器の外に銭貨を納めたものは全国でも初めての例で、奈良時代の出産風俗を知る上で貴重な資料となります。（横山 定）

普及啓蒙活動

平成3年度埋蔵文化財専門職員研修

当研修会は、県内の行政機関において、埋蔵文化財の調査にたずさわる専門職員の資質の一層の向上を図ることを目的に、隔年で実施しています。今年度は11月19日、57名の参加を得て当センターで開催し、午前には広島大学教授潮見浩氏による「製鉄遺跡をめぐって」、午後は奈良大学教授水野正好氏による「古代のまじない」の講演を行ないました。

潮見氏は、鉄という字の語源を導入とし、鉄を使用する段階を鉄器輸入の段階・素材を輸入し製品を生産する段階・素材も生産する段階の三つに区分して説明され、さらに古墳時代以降近世までの各時代の製鉄遺跡の分布状態、遺構の構造、復原の工程の特色を述べられました。後半はスライドを用いて最近の中国地方の製鉄遺跡の事例を詳しく紹介されました。

水野氏は、まず出産にまつわるまじないの事例を説明され、古代人がいかに災厄を恐れ、災

厄を追い払うためにエネルギーを費やしていたかを指摘されました。この災厄を追い払うまじないは、古代中国の陰陽五行説の影響を受けており、日本では陰陽道の思想となり、その中心として鬼を災厄の象徴とする信仰が生まれたことを述べられました。この鬼信仰が古代人の日常生活の細部にまで浸透し規制していることを、衣食住に係る様々な発掘事例と民族例を通して立証されました。



岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表 (平成3年度)

	遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間(月)	面積(m ²)
1	赤浜散布地	総社市窪木	県営圃場整備	弥生～中世の集落跡	4～5	460
2	白江遺跡	小田郡矢掛町榑ヶ辻	〃	〃	10～12	460
3	窪木遺跡・南溝手遺跡	総社市窪木・南溝手	県立大学建設	縄文～中世の集落・水田跡	4～3	26,335
4	窪木業師遺跡	〃 窪木業師	前川河川改修	弥生～中世の集落跡	4～11	4,500
5	みそのお古墳群ほか	御津郡御津町高津	御津工業団地造成	弥生墳墓・古墳群・製鉄遺跡	4～10	9,700
6	津寺三本木遺跡	岡山市津寺	県道改良	弥生～近世の集落跡	12	197
7	津島遺跡	〃 学南町	都市計画道路	弥生～中世の集落跡	1～3	800
8	政所遺跡	〃 高松原古才	送水管埋設	〃	2～3	208
9	西花尻散布地	〃 西花尻	収蔵庫建設	弥生散布地	7	34
10	寺山古墳ほか	〃 寺山地区	南部浄水場建設	古墳・山城	5	85
11	塩納成遺跡	赤磐郡瀬戸町塩納	墓地造成	弥生集落跡	6～7	680
12	伊田沖遺跡	御津郡御津町伊田	工業団地造成	古墳～奈良時代の包含層	8	75
13	内平遺跡	浅口郡鶴方町緑丘	団地集会所建設	弥生～中世の集落跡	8・2	432
14	吉野遺跡	小田郡矢掛町東三成	小学校屋内運動場	弥生散布地	9	20
15	田益遺跡	岡山市田益	国道バイパス建設	弥生～中世の集落跡	1	36
16	熊山遺跡群	赤磐郡瀬戸町弓削	送電鉄塔建設	石積遺構	2	55
17	辛音口古墳ほか	〃 鍛冶屋	圃場整備	古墳ほか	3	83
18	百間川兼基遺跡	岡山市兼基	百間川河川改修	弥生～中世の集落・水田跡	4～3	4,680
19	津寺遺跡	〃 津寺	山陽自動車道建設	古墳時代の集落跡	2	98
20	政所遺跡	〃 加茂	〃	弥生～古墳時代の集落・水田跡	5・6・1～3	930
21	田益遺跡	〃 田益	〃	弥生～中世の集落跡	4～6	5,440
22	池新田遺跡	赤磐郡山陽町穂崎	〃	古墳～奈良時代の散布地	7～8	1,120
23	新屋敷遺跡	〃 〃	〃	弥生集落跡	7～8	1,164
24	長尾遺跡	〃 長尾	〃	古墳時代～中世の散布地	5	50
25	馬屋遺跡	〃 馬屋	〃	古墳時代～中世の官衙・集落跡	6・8～3	9,992
26	斎富遺跡	〃 斎富	〃	縄文～古墳時代の集落跡	5・6～3	8,183
27	斎富古墳群	〃 〃	〃	古墳群	12～3	1,683
28	中原古墳群	真庭郡久世町中原	中国横断道建設	〃	4～9	4,700
29	元定古墳群	〃 落合町上河内	〃	〃・弥生集落	4～5	4,000
30	高下遺跡	岡山市竹原	国道バイパス建設	弥生～中世の集落跡	4～3	3,150
31	蓮池尻遺跡	吉備郡真備町	井原線建設	〃	4～8	2,120



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01

岡山市西花尻1325-3

電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分